

## 焦らず基本を守る

新名神6車線化現場で

佐藤渡辺の石井社長

佐藤渡辺の石井直孝社長は7日、中日本高速道路名古屋支社発注の新名神高速道路甲賀土山地区6車線化工事の現場で、安全パトロールを行った。写真。本社からは石井社長、原田秀一顧問、堂尻伸二執行役員工事本部安全環境部長、中部支店から高畑一幸執行役員支店長、小刀禰豊安全環境部長



が参加した。

同パトロールは、2022年度全国安全週間準備期間の取り組みの一環として、経営トップによる安全意識高揚を目的に、進捗状況や安全衛生管理活動を確認した。

高畑支店長は「今年度の全国安全週間のスローガンは『安全は急がず焦らず怠らぬ』。焦らず落ち着いて、安全作業を徹底するよう」とし、堂尻部長は「狭小部の施工だが、生コン車のバック誘導、重機作業半径内立入禁止措置など、危険のポイントを把握し、適切な措置が取れている。一丸となつて現場の自主的な安全衛生管理活動をより一層推進し、完成まで無事故・無災害を達成してほしい」と述べた。

石井社長は講評で、「現場は、高速道路を車線規制した中で行う狭小部の工事であり、材料運搬車もバックで進入するケースが多く、誘導は必須となる。また、多くの施工班が輻輳（ふくそう）作業を行っており、接触事故防止のため、作業監視員の配置も必要だ。7月に車線切り替えの日程も決まっております、これからの梅雨の時期を考えると工程的にもタイトだが、焦らずに落ち着いて、基本を守った安全作業をお願いしたい」と呼び掛けた。